



附属総合ミュージアムで学生が手がける 館蔵資料展「ハイカラ女学生の冬籠り」を開催

附属総合ミュージアムで博物館学芸員課程を履修する学生たちが、ミュージアムの所蔵品を使って企画と展示に取り組む館蔵資料展「ハイカラ女学生の冬籠り」が12月17日から4日間、開催されます。

附属総合ミュージアムは近現代の生活文化資料約6万点を所蔵。中でも着物を中心とする「近代衣生活資料」9092点は国の登録有形民俗文化財となっています。館蔵資料展は博物館学芸員課程の博物館実習の一環として毎年、12月～1月に行っています。ミュージアム所蔵の豊富な資料の中から学生が興味を持った資料を選び、統一テーマを設定して展示を行います。自前の展示場と資料を使って企画・実施する館蔵資料展は、大学附属のミュージアムを持つ本学ならではのプログラムです。

今年は履修する10人が取り組みました。テーマは「ハイカラ女学生の冬籠り」。大正～昭和初期の冬の家族の暮らしを、女学生を中心に両親、弟妹一人ひとりを小物や衣服の展示で表現します。木製こたつや湯たんぽ、カイロなど暖をとる生活用品から、女学生が外出時に着用する着物や巾着、女学生に人気の雑誌「宝塚」や当時の教科書――。父親をイメージしたコーナーではたばこや消防団の法被、男性用の「とんび」と呼ばれた毛皮付きコート、母親ならエプロンやお弁当箱、弟妹ならぬいぐるみなどを展示し、それぞれの家族が温かな家で過ごす様子が伝わるよう工夫します。

学生たちは丁寧に梱包された展示品を一つ一つ点検しながらショーケースに展示。広報用

のはがきやチラシも作成し、来場を呼びかけています。日本語日本文学科3年の上田楓華さんは「令和の女子大生が憧れを持って選んだ大正時代の暮らしの資料です。展示の最後には、花嫁小物を展示して、女学生の夢見る心を表現します。来場された方に当時の家庭の温かさとともに現代を生きる私たちの感性を感じてもらえたら」と話しています。

附属総合ミュージアムでは博物館学芸員課程を所管しており、博物館概論や博物館展示論などの講義のほか、学外の博物館と自前の展示室で博物館実習を行っています。必要単位をそろえれば卒業と同時に博物館学芸員の資格を取得できます。

タイトル 館蔵資料展「ハイカラ女学生の冬籠り」

開催日時 12月17日(火)～20日(金)

10:00～16:00

会場 附属総合ミュージアム

武庫川女子大学学術研究交流館5階ギャラリー

入館無料

この件に関する取材のお申込み、お問い合わせは武庫川女子大学広報室

Tel 0798-45-3533

E-mail kohos@mukogawa-u.ac.jp

へお願いします

